

機関番号：32698

研究種目：若手研究（B）

研究期間：平成19年度～平成22年度

課題番号：19720084

研究課題名（和文） 植民地朝鮮における近代児童文学の成立と日本児童文学の交渉

研究課題名（英文） A Study of the History of the Relationship Between modern Korean & Japanese Children's Literature

研究代表者 大竹聖美 (OTAKE KIYOMI)

東京純心女子大学・現代文化学部・教授

研究者番号：60386795

研究成果の概要：

近代日本の児童文化領域における朝鮮観および朝鮮受容を整理する目的で、1. 明治期の代表的少年雑誌（『少年園』『穎才新誌』『小国民』『少年世界』）の、特に日清・日露戦争期に掲載された朝鮮関連記事、2. 巖谷小波による朝鮮関連の文章、小波が紹介した朝鮮の昔話、3. 大和田建樹『満韓鉄道唱歌』、いしはらばんがく『地理歴史 朝鮮唱歌』など唱歌に歌われた朝鮮、4. 大正期の「模範家庭文庫」「世界童話大系」「日本児童文庫」などで紹介された朝鮮昔話、5. 昭和初期のプロレタリア児童文化の領域に登場していた朝鮮関連記事を考察した。

植民地朝鮮において日本人が展開した児童文化・文学を整理する目的で、1. 巖谷小波や沖野岩三郎による朝鮮満州巡回口演童話会、2. 朝鮮総督府によって編纂された『朝鮮童話集』や朝鮮教育会による課外図書の「普通学校児童文庫」など、朝鮮で編集・印刷・刊行された日本語書籍、3. 「皇国臣民化児童文化」と呼べる一群（紙芝居・皇国軍人養成児童図書・綴方集・その他童話集、雑誌）を考察した。

朝鮮人による児童文化・文学として、特に日本に渡った朝鮮人の日本児童文化受容を考察。崔南善・方定煥・金素雲の三人を10年代、20年代、30年代の典型例として概観した。

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
平成19年度	500,000	0	500,000
20年度	500,000	150,000	650,000
21年度	0	0	0
22年度	500,000	150,000	650,000
年度			
総計	1,500,000	300,000	1,800,000

研究分野：児童文学、児童文化、韓国児童文学、韓国絵本

科研費の分科・細目：各国文学

キーワード：児童文化、児童文学、植民地、韓国、朝鮮、近代、童謡、児童雑誌

科学研究費補助金研究成果報告書

1. 研究開始当初の背景

1904年、六堂・崔南善は、初の朝鮮皇室留学生として東京に留学し、帰国後東京から持ち帰った印刷機を利用して雑誌を刊行した。朝鮮初の近代雑誌『少年』である。朝鮮の若い人たちを対象とした新知識の啓蒙雑誌といわれるが、実はその頃、日本では巖谷小波による『少年世界』という類似の人気雑誌があった。この崔南善の『少年』と巖谷小波の『少年世界』の類似性を一例として挙げるができるように、日本と韓国の近代児童文学史には密接な交渉関係がある。

これまでの日本の児童文化・文学史研究における旧植民地に関連した研究は、ごく限られたものしかない。地域別に整理してみると以下のとおり分類できる。

①植民地台湾の児童文化・文学研究

(游珮芸『植民地台湾の児童文化』明石書店、1999)

②植民地朝鮮の児童文化・文学研究

(李在徹、李相琴、李妊炫、金永順、仲村修、大竹聖美の研究)

③植民地満洲の児童文化・文学研究

(満洲児童文化に実際にかかわった石森延男による言及(「満洲児童文学回想」、「満洲児童文学資料」)

④台湾・朝鮮・満洲・南洋などの日本帝国主義の勢力範囲全般に関する文化・文学現象全般を網羅しようとした研究

(川村湊『海を渡った日本語 植民地の国語の時間』青土社、1994)

2. 研究の目的

本研究は、これらの植民地児童文化・文学研究における先行研究をふまえ、先行研究の断片性を克服し、植民地朝鮮の児童文

化・文学を体系的に把握することが目的である。さらに、近代の日韓の児童文学発生過程における類似性や個別性を指摘し、その特性を解明する。

3. 研究の方法

韓国児童文学学会(韓国)および建国大学校童話と翻訳研究所(韓国)の研究支援を受けながら、主に韓国(ソウル)に出張し、近代児童図書資料の調査・研究を行った。具体的には下記のとおり。

①旧朝鮮総督府図書館資料の調査、不足資料の補充・整備(どのような日本語児童書籍が植民地朝鮮の総督府図書館に配置されていたのか)

②京城(現・ソウル)で刊行された日本語児童文学関連書籍の調査・研究

③重要作家(崔南善・方定煥・金素雲)の著書、関係雑誌の調査・研究)

④韓国児童文学学会会長・李在徹博士個人蔵書籍の調査

⑤旧京城帝国大学図書館、延世大学図書館[解放前・日語資料]の調査・研究

4. 研究成果

(1) 近代日本(内地)の児童文化領域における朝鮮観・朝鮮受容

①明治期の代表的少年雑誌(『少年園』『穎才新誌』『小国民』『少年世界』)を調べ、特に日清・日露の戦争期にどのような朝鮮関連の記事が掲載されていたかを整理した。

②『少年世界』の主筆であり、多くのお伽噺集を刊行し、この時代の児童文化を築いた人物として巖谷小波の朝鮮観を知らずしてこの時代を理解できないとの認識から、巖谷小波による朝鮮関連の文章や、小波が紹介した朝鮮の昔話、小波が朝鮮に渡り開

催した口演童話会の模様などを考察した。

③国民愛唱歌として時代を彩った『鉄道唱歌』の詞を書いた大和田建樹の『満韓鉄道唱歌』や、いしはらばんがくの『地理歴史朝鮮唱歌』など唱歌に歌われた朝鮮の歴史風土を知ることで、この時代の日本人が朝鮮をどう理解し、どう伝えようとしていたかを考察した。

④大正期については、「模範家庭文庫」「世界童話大系」「日本児童文庫」といった叢書が児童文化の中で大きな位置を占めていたことに着目し、そこで紹介された朝鮮や朝鮮昔話はどのようなものであったか検討した。大正期には、明治時代と違った人道主義的な朝鮮観も見られるが、しかし、国際協調の潮流の中にあっても、日本昔話集の巻の中に、アイヌ・琉球・台湾と並んで朝鮮が一地方として組み込まれているなど、帝国主義的な枠組みを確認することができた。

⑤昭和初期のプロレタリア児童文化の領域にも、朝鮮が登場していたことを確認した。韓国では現在もつばら児童の人権尊重の先駆的運動であり、また、民族独立運動であったとされる方定煥による一連の「オリニ運動」が、『少年戦旗』では無産階級による労農少年運動として連帯の対象と見られ、熱烈に応援されていた。また、プロレタリア童謡集として名高い楨本楠郎の『赤い旗』では、表紙にハンゲルが大きく描かれた目を引くデザインに注目させられる。

(2) 植民地朝鮮において日本人が展開した児童文化・文学

①朝鮮に渡った日本人児童文学者による児童文化活動の代表的な例として、巖谷小波や沖野岩三郎による朝鮮満州巡回口演童話会があった。②朝鮮総督府によって編纂さ

れた『朝鮮童話集』や朝鮮教育会による課外図書の「普通学校児童文庫」など、朝鮮で編集、印刷、刊行された日本語書籍を整理した。

③「普通学校児童文庫」は日本人が朝鮮人子弟に向けて編纂した日本語と朝鮮語が混在した読み物であり、日本の児童文化史においても、韓国の児童文化史においても、これまで言及されることのなかった独特の文庫である。

④「皇国臣民化児童文化」と呼べる一群がある（紙芝居・皇国軍人養成児童図書・綴方集・その他童話集、雑誌など）。

紙芝居は、日本においては民間事業者による大衆文化であったが、朝鮮においては、総督府によって組織的に社会教育メディアとして利用されていた。ラジオや公会堂などがなく、文盲率の高い農村漁村山間部まで自転車で入り込み、安価な紙芝居で銃後の備えについて宣伝した。日本国内においては路地裏で子どもたちが群がった大衆児童文化であった紙芝居が、植民地においては、幅広い年齢層のための社会教育装置として組織的に活用されていた。

その他、出版統制の時代の刊行物として、創始改名した朝鮮人著者による日本語書籍があり、雑誌には「皇国臣民の宣詞」がかならず掲載されているなどの特徴があった。

(3) 朝鮮人による児童文化・文学

①朝鮮人による朝鮮人のための児童文化・文学として、現在韓国における児童文学史研究の領域で研究されており、代表的なものとして李在徹による一連の研究があり、本研究では参考として概観した。

②日本に渡った朝鮮人の日本児童文化の受容は重要な研究課題である。本研究では、崔南善・方定煥・金素雲の三人を10年代、

20年代、30年代の典型例として概観した。

崔南善：朝鮮初の近代的な雑誌『少年』を刊行したが、これは、巖谷小波主筆の『少年世界』と比較することができる。また、崔南善には、『京釜鉄道歌』という朝鮮初の唱歌があり、これは、日本の鉄道唱歌をモデルに作られたものである。

方定煥：雑誌『オリニ』のほか、口演童話などの一連の「オリニ運動」がある。『オリニ』は、同時代の日本の雑誌『赤い鳥』『金の船』などと比較できる。

金素雲：『木馬』等、日本語と朝鮮語を併記した児童雑誌を朝鮮の子どもたちのために創刊したほか、朝鮮の歴史や文化を日本人に伝えるための日本語書籍も多い。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計5件)

- ① 大竹聖美「金素雲(キム・ソウン)の子ども観——朝鮮の「おさなごころ」と「民族」、『朝鮮童謡選』と郷土の子どもたちへの想い」、白百合女子大学児童文化研究センター『児童文化研究センター研究論文集』11号、pp.7～22、平成20年、査読有
- ② 大竹聖美「日本と韓国の『鉄道唱歌』——大和田建樹『満韓鉄道唱歌』(1906)と崔南善(チェ・ナムソン)『京釜鉄道歌』(1908)」、東京純心女子大学『東京純心女子大学紀要』10号、pp.1～12、平成20年、査読有
- ③ 大竹聖美「韓国児童文学研究文献解題——2005年～2007年」、日本児童文学学会『児童文学研究』第41号、pp.12～24、平成20年、査読無
- ④ 大竹聖美「巖谷小波斗 近代韓国」(韓国語)、(韓国)韓国児童文学学会『韓

国児童文学研究』第15号、pp.149～167、平成20年、査読有

- ⑤ 大竹聖美「植民地と児童文化～朝鮮研究から」、日本植民地教育史研究会『植民地教育史研究年報』第13巻、平成23年3月、査読無

[学会発表] (計5件)

- ① 大竹聖美「近代児童図書における「昔話集」編纂の意味——近代日本人の朝鮮認識と昔話集」、アジア児童文学学会第9回大会、平成20年7月、台湾台東大学
 - ② 大竹聖美「『植民地朝鮮と児童文化——近代日韓児童文化・文学関係史研究』——ソウルでの児童文化資料発掘と研究方法をめぐって」、日本児童文学学会、平成21年9月
 - ③ 大竹聖美「朝鮮における口演童話」、東京学芸大学国際フォーラム、平成21年12月
 - ④ 大竹聖美「日韓比較児童文化文学研究の展望——『植民地朝鮮と児童文化』(社会評論社)の概要、ならびに朝鮮総督府朝鮮教育会『普通学校児童文庫』(1928～30年)を通して考える」、日本植民地教育史研究会第13回大会、平成22年3月27日、こども教育宝仙大学
 - ⑤ 大竹聖美「グローバルな文化交流と融合という背景におけるアジア児童文学の趣向——日韓における昔話の類話、創作童話の翻案・受容を通して考える」アジア児童文学学会第10回大会、平成22年10月17日、中国浙江省浙江師範大学
- [図書] (計2件)
- ① 大竹聖美『植民地朝鮮と児童文化』社会評論社、平成20年12月

- ②石井正己編『韓国と日本をむすぶ昔話～国際化時代の研究と教育を考えるために～』、大竹聖美「朝鮮における口演童話」pp.28～34、東京学芸大学、平成22年2月

〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等
なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

大竹聖美 (OTAKE KIYOMI)

研究者番号：60386795

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：